



人文社会科学系 教授  
**松井 克浩** Katsuhiro Matsui

専門分野

地域社会学、災害社会学

人文社会科学

## 災害に強いコミュニティの条件 ～ 災害対応・支援の経験知の蓄積から ～

キーワード 防災地域づくり、支援の文化、原発避難、コミュニティのレジリエンス、コミュニティの分断と修復

### 研究の目的、概要、期待される効果

日本は、あきれほど自然災害の多い国です。水害や豪雪、地震、津波などに繰り返し襲われてきました。災害は地域社会の脆弱性を浮き彫りにすると同時に、被災経験を地域の「強み」に変えていくきっかけになる場合もあります。

社会学は〈人と人とのつながり〉を対象とする学問です。災害に関しては、ダムや堤防、住宅などの「ハード」ではなく、コミュニティや社会意識・社会心理といった「ソフト」面と防災・復興との関わりについて研究します。私自身は、これまで中越地震・中越沖地震の被災と復興の過程を対象として、支援の経験知の蓄積と災害に強いコミュニティの条件について調べてきました。

東日本大震災後は、とくに福島原発事故により新潟県に避難してきた人びとへのヒアリングを通じて、新潟県における支援の特徴やコミュニティの分断とその修復可能性などについて研究しています。原発避難の問題には自然災害とは異なる難しさがあるのですが、現代日本社会の抱える課題がよりクリアに映し出されているともいえます。

災害という角度から地域社会を見ることは、人口減少や高齢化に悩む地域の課題と可能性を浮き彫りにして、持続可能な社会のあり方について考えることにもつながるはずで



学生によるヒアリングの様子(社会調査実習)



最近の研究成果(著書)

関連する  
知的財産  
論文等

松井克浩 (2008) 『中越地震の記憶一人の絆と復興への道』高志書院  
 松井克浩 (2011) 『震災・復興の社会学—2つの「中越」から「東日本」へ』リベルタ出版  
 松井克浩 (2017) 『故郷喪失と再生への時間—新潟県への原発避難と支援の社会学』東信堂

### アピールポイント

災害という切り口から地域の課題と可能性について考えます

被災者・原発避難者への支援のあり方について考えます

### つながりたい分野(産業界、自治体等)

- ・防災を通じた地域づくりに取り組む自治体、団体など
- ・被災者・原発避難者の支援に取り組む自治体、団体など

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp

# 飯島康夫研究室



人文社会科学系 准教授  
飯島 康夫 Yasuo Iijima

専門分野 民俗学、博物館学

人文社会科学

## 民俗学による地域生活の研究

キーワード 民俗学、生活文化、地域、伝承、聞き書き

### 研究の目的、概要、期待される効果

民俗学は、日々の生活の中で地域の人々に伝承されてきた事象から、生活文化の変遷と意味を明らかにしようとするものです。生活文化は、日常の中に当たり前のこととして埋め込まれているため、文字に記録されないことも多く、いつのまにか変化してしまいます。私たちは「聞き書き」という方法、すなわち生活を実践してきた地域の人と対話し記録するという方法によって、自覚しないまま変化し消えてしまった生活事象、あるいは、何のためかわからないながらも続けている生活事象について掘り起こして資料化します。そこから生活事象が変化し、残存する隠れた理(ことわり)を明らかにしたいと考えています。

個々の生活事象は、それぞれ独立しているわけではなく、他の生活事象と絡み合っている存在しています。ひとつの生活事象を理解するためには、地域の生活全般をできるだけ捉えることが必要になります。

私たち新潟大学人文学部民俗学研究室では、このような考えから研究・教育の一環として、毎年新潟県内を中心に、ひとつの地域の生活事象全般にわたる民俗調査を行い報告書にまとめています。これまでに24冊の民俗調査報告書を刊行してきました。



近年の新潟大学民俗学研究室民俗調査報告書



学生による石造物調査



関連する  
知的財産  
論文等

新潟大学人文学部民俗学研究室『新潟大学民俗調査報告書』第1集～第24集  
飯島康夫・池田哲夫・福田アジコ編『環境・地域・心性—民俗学の可能性—』岩田書院、2004  
池田哲夫・飯島康夫編『旧山古志村民俗資料館所蔵 民俗資料目録』2016

### アピールポイント

私たちは、地域の課題解決や地域振興のための直接的な「答え」を提示するわけではありません。そのための参考となる資料の調査や記録を行っています。

### つながりたい分野（産業界、自治体等）

- 地方自治体

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp



人文社会科学系 教授  
**原田 健一** Kenichi Harada

専門分野 映像社会学、メディア研究、文化社会学、歴史社会学

共通・他の領域

## MALUI(博物館、資料館、図書館、大学、産業界) 連携による地域資料・映像の共有化

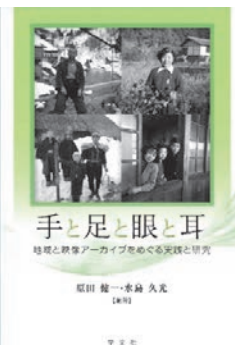
キーワード コミュニティと映像、デジタル・アーカイブ、地域とメディア

### 研究の目的、概要、期待される効果

私たちは、地域の研究・教育機関であるMALUI(博物館・資料館・図書館・大学・産業界)連携によって、資料を所蔵する者と、資料を保存・公開する機関と、研究をしてその成果を教育および社会へ還元する研究者が、それぞれ〈資源〉としての映像メディアの資料・データを相手に提供し、たがいに補い合うことによってともに発展してゆくという**地域循環的な研究サイクルを構築**することを目ざしています。

私たちが構築した「**にいがた MALUI連携地域データベース**」<http://arc.human.niigata-u.ac.jp/malui/> は、研究サイクルを実現するために、新潟県立図書館「郷土新聞画像データベース」(戦前の郷土新聞発行別で約3万件(約20万紙面))と、新潟大学人文社会・教育科学系附置地域映像アーカイブ研究センターの「**にいがた 地域映像アーカイブ・データベース**」(写真・動画・音源など約5万点)を統合したデータベースです。

映像を発掘するために地域住民と連携し、その発掘された映像を展覧上映やワークショップなどで公開し、調査研究を進め、さらにその成果を社会へと還元しています。こうした循環作業は**地域の活性化事業として、地域社会、あるいは文化全体のボトムアップ**につながるものです。



関連する知的財産論文等

- 原田健一(2019・予定)『映像の生成と反復—メディアの戦時・占領論』知泉書館
- 原田健一・水島久光編(2018)『手と足と眼と耳—地域と映像アーカイブをめぐる実践と研究』学文社
- 原田健一・石井仁志編(2013)『懐かしさは未来とともにやってくる—地域映像アーカイブの理論と実際—』学文社

### アピールポイント

映像の製作現場で仕事していたこともあり、研究だけでなく、実務的でありたいと思っています。現実に直接関わり、社会そのものを変えつつ、そのこと事態も研究しています。

### つながりたい分野(産業界、自治体等)

・2019年1月19日～3月21日、新潟県立歴史博物館にて大規模な展覧会を開催します。さらなる連携による展開ができればと思います。

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで [onestop@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:onestop@adm.niigata-u.ac.jp)



人文社会科学系 教授  
**福島 治 FUKUSHIMA Osamu**

専門分野 社会心理学、パーソナリティ心理学

医療・健康・福祉

## 混合効果位置スケールモデルによる 個人内変動と個人間変動の分析

キーワード マルチレベル分析、縦断研究、変動性、

### 研究の目的、概要、期待される効果

混合効果位置スケールモデルと呼ばれる分析法により、自己概念の個人内変動と個人間変動を検討しています（図1）。

この方法は人の変化に関するあらゆる量的データに適用できるものです。人には測定可能な様々な心理的・生理的属性がありますが、概ね100人以上の人々に関して、縦断的なデータが得られれば、どのような測定値でも、変化の解析を行えます。その利点は、個人内と個人間の変化に影響する異なる要因を同じモデルの中で一括して評価できることです。

例えば、抑うつ的な気分の変化には、日々のストレスの違いのような個人的効果と、年収のような社会経済的地位による全体的効果があります。ストレスと年収にも関連はありますが、これまでは別に分析せざるを得ませんでした。しかし、本研究の方法を用いると、その関連を含めて一括して1つのモデル内で検証できます。さらに、調べたい変数の個人内変動と個人間変動の大きさも比較できるので、現象理解に役立ちます。

この分析方法は、教育（テスト得点など）、福祉（育児不安・介護負担など）、保健（飲酒・カロリー摂取量など）、看護（治療行為の動機づけなど）のような多くの社会・健康科学領域のデータに適用できる新しい手法です。

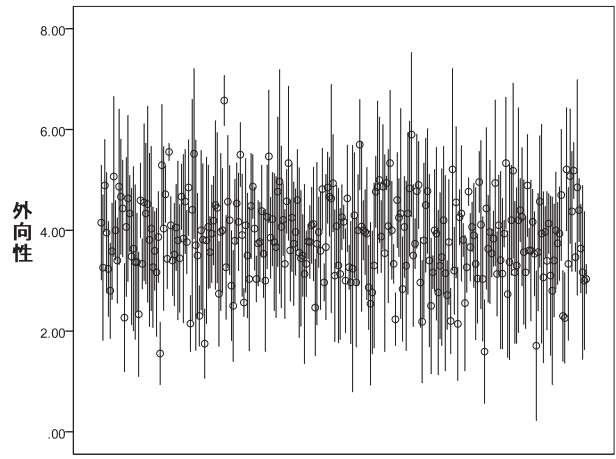


図1. 外向性の個人内変動と個人間変動

図の測定値は外向性の程度に関する自己評定です。自分の行動特徴に関する自分自身による評定なので、自己概念の一部にあたります。

この図には、変動に影響する要因はなく、単純に個人内変動と個人間変動を示しています。

上下に伸びている線分は、各個人の測定値の変動幅（±1SD）を表します。これが個人内変動です。

線分の中心にある「○」は、各個人の平均値を示しています。その高さが人によって違うのがわかるかと思います。これが個人間変動です。

関連する知的財産論文等 『自己概念のゆらぎ：対人関係におけるその分化と変動』 知泉書館 2019年  
 「Narcissism, variability in self-concept, and well-being」『Journal of Research in Personality』,45巻, 2011年  
 「親の自己愛と子への攻撃：自己の不遇を子に帰すとき」、『社会心理学研究』, 22巻, 2006年

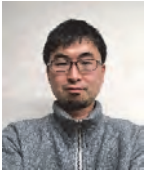
### アピールポイント

手元に人に関する大量データがあるけれども、どうやって分析したらよいのだろうか？ 分析法は多々あるので、そんな疑問があるときにはどうぞご相談ください。

### つながりたい分野（産業界、自治体等）

・教育、福祉、保健、看護、医療などの現場やセンターなどで対象者に関するデータをお持ちの方々、民間、公的機関、県庁・市役所等で住民に関する諸調査の企画担当の方々。

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで [onestop@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:onestop@adm.niigata-u.ac.jp)



人文社会科学系 准教授  
白井 述 SHIRAI Nobu

専門分野 実験心理学、発達心理学、視覚科学

人文社会科学

# ヒトの視覚処理と行動特性の発達についての定量的分析

キーワード 視覚、身体運動、発達、赤ちゃん、子ども

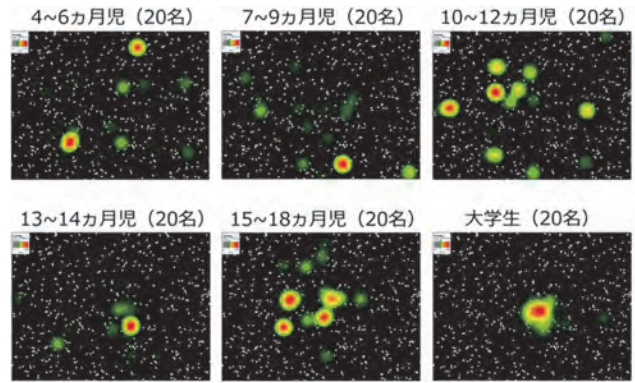
## 研究の目的、概要、期待される効果

0歳～大学生までの幅広い年齢層を対象に、私たちが視覚的に物事を認識する仕組みがどのように発達するのか、それらの視覚的機能が私たちの行動の制御にどのように関わっているのか（あるいは、発達の過程でどのようにして関わるようになるのか）を調べています。

これまでに、乳児期の身体運動機能の成熟と視覚機能の発達がどのように相互作用するのかを実験心理学的な手法で検討してきました。

また近年では、ヴァーチャル・リアリティ（VR）や拡張現実（augmented reality：AR）といった比較的新たしい技術によって提示される視覚情報が、私たちの行動にどのような影響を与えるのか、また、子どもと大人の間で、そうした影響の生じ方にどのような差があるのかについても、心理学実験や行動観察といった手法を用いて研究を進めています。

視覚機能の発達と、それに伴う視覚経験の変容について精査することで、様々な画像や映像など、私たちが日常的に接している視覚メディアと子どもとの関わりについて考察する上で有効な、定量的な基礎科学的データを提供することを目指しています。



生後4～18ヶ月の乳幼児と成人(大学生)とで、動きを伴う動画に対して、まったく異なる視線パターンが生じることを可視化した例。



AR(augmented reality: 拡張現実技術)によって、現実世界に視覚対象を重ね合わせて提示した例。こうした情報提示が、私たちの日常的な行動にどのような影響を及ぼすのか、また、影響があるならば、子どもと大人の間で、影響の出方に差はあるのか、といったことを、実験心理学的な手法によって検討しています。

関連する知的財産論文等	論文 Shirai, N., et al. (2018). <i>i-Perception</i> , 9(2), doi: 10.1177/2041669518761191
	論文 Shirai, N. & Imura, T. (2016). <i>Scientific Reports</i> , 6(34734), doi:10.1038/srep34734
	論文 Shirai, N. & Imura, T. (2014). <i>Psychological Science</i> , 25, 485-493, doi:10.1177/0956797613510723

## アピールポイント

子どもはもちろん、人間一般の行動や心的機能の定量的評価に関心がございましたらご相談下さい。

## つながりたい分野（産業界、自治体等）

- 子どもの行動、心的機能の評価に関わる分野。
- 視覚情報と人間一般の行動との関係性についての分析、評価が必要な分野。

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp

## 渡邊研究室



人文社会科学系 教授

渡邊 登 WATANABE Noboru

専門分野

社会学、地域社会論、社会運動論

人文社会科学

## 『ポストフクイチ社会』に向けた原発立地県における地域公共圏構築の可能性と課題

キーワード ポストフクイチ社会 住民自治 再生可能エネルギー（=コミュニティエネルギー）

## 研究の目的、概要、期待される効果

2011年3.11東日本大震災によって引き起こされた「原発震災」は新たな多面的な社会システムへの変革をグローバルに促す転換点となり、脱炭素社会への取り組みは喫緊の課題となっています。日本においても原発再稼働政策を維持しつつ再生可能エネルギーの主力電源化を図るというアンビヴァレントな取り組みをせざるを得なくなっています。

私の研究の目的は、第一に原発立地地域における脱原発へのソフトランディングの可能性を新潟県柏崎市・刈羽村において探ること、第二に、この転換で焦点化される地域社会が主体となった地域分権的・自治的なエネルギー転換への可能性と課題を原発周辺地域として新潟県の（原発立地地域以外の）各自治体において探ること、第三に以上を踏まえて「ポストフクイチ」社会（=原発震災後の社会）に向けた地域公共圏構築の可能性を立地地域と周辺地域の相互作用から検討することです。第四に併せて、地域コミュニティの課題等で日本と共通の課題を抱える韓国の地域社会や社会運動との共通性や相違を比較研究します。

この研究は世界共通の課題とされているSDGsを実現するあり得べき社会像を模索することになると確信しています。



富山県の小水力発電の現地視察



著書『核と対峙する地域社会』リベルタ出版、2017年

関連する知的財産論文等

渡邊登『「核」と対峙する地域社会～巻町から柏崎刈羽、そして韓国へ～』リベルタ出版、2017年  
関礼子・渡邊登他『被災と避難の社会学』東信堂、2018年

## アピールポイント

地域社会において再生可能エネルギーに取り組むことはあり得べき社会（分権、市民参加、地域自治）への選択であり、その可能性を問うことは極めて重要です。

## つながりたい分野（産業界、自治体等）

- 地域循環共生圏の構築を、特に再生可能エネルギーを主軸に進めようとしている自治体、企業、NPO等

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp



人文社会科学系 准教授  
**中本 真人** NAKAMOTO Masato

専門分野 芸能論、日本芸能史、日本音楽史、中世文学、上代文学

人文社会科学

## 観客が集まる理由、観客を集める工夫 ～ 図像資料を活用した伝統芸能の研究 ～

キーワード 伝統芸能、古典芸能、芸能の継承、地域創生、神楽

### 研究の目的、概要、期待される効果

主たる研究課題は、宮廷の御神楽を中心とする古代中世芸能史の研究です。すべての芸能は、形に残りません。特に録音・録画技術の普及する以前の芸能は、視覚的な再現が極めて困難です。そのような過去の芸能について、古記録や有職故実書、さらに図像資料を活用しながら、具体的に把握しようと試みています。また近年は、民俗芸能、年中行事、歌謡、説話、和歌、地域学なども広く視野に収めて研究しています。

芸能、エンターテインメントは、舞台上にいる演者だけでは成立しません。芸能を受け取る側、つまり観客が不可欠です。演者は、観客の数、関心、反応を肌で感じながら、その要求に応えられるようにパフォーマンスを繰り広げます。しかし従来の研究は演者が中心で、観客に対する関心は強くありませんでした。

芸能研究は、過去の営みを明らかにすると同時に、現在の諸課題に対する示唆も与えてくれます。近年、地域の芸能は過疎化、少子高齢化などによって、多くが危機に瀕しています。演者の減少以上に深刻なのは、実は観客の減少ではないでしょうか。なぜ観客は集まるのか、どうすれば観客を呼べるのかという課題に、過去の文献や絵画などを活用しながら考えていきます。



「三芝居之図」(国立国会図書館デジタルコレクション)



最近の研究成果(著書)

関連する知的財産論文等	中本真人(2013)『宮廷御神楽芸能史』新典社 中本真人(2016)『宮廷の御神楽—王朝びとの芸能—』新典社新書
-------------	---

### アピールポイント

現代の地域をめぐる諸課題は、すぐに解決策が見つかるとは限りません。先人の努力や過去の経験に学びながら、現代に生かせる方策や工夫を一緒に考えていきましょう。

### つながりたい分野(産業界、自治体等)

- ・地域に伝わる芸能を生かしたい自治体、観光協会、伝承保存会
- ・集客力をアップさせたい劇場、イベント運営会社

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで [onestop@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:onestop@adm.niigata-u.ac.jp)

# 考古学研究室



人文社会科学系 助教  
清水 香 SHIMIZU Kaori

専門分野 考古学

人文社会科学

## 考古学的方法を用いた地域文化の研究

キーワード 考古学（近世・近現代）、発掘調査、物質文化研究

### 研究の目的、概要、期待される効果

考古学は、過去の人間の行為によって残された痕跡から、その行動を復元し、活動の変化や当時の思想を追究する学問です。時代としては、人類の活動の跡が確認される、日本では旧石器時代、縄文時代といった先史時代はもちろん、近年ではアジア太平洋戦争（沖縄陸軍病院南風原壕群）、国立ハンセン病療養所などが、近現代の遺跡として調査・研究の対象となっています。

新潟大学人文学部考古学研究室では毎年、考古学実習として遺跡の発掘調査を実施し、学生が中心となって整理作業を行い、報告書を刊行しています。2019年度は佐渡市西三川砂金山跡、五泉市新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター村松ステーション旧陸軍関連施設跡の発掘調査を行いました。現在、今年度の発掘調査で記録した遺構の図面や遺物の整理を進めており、来年度の調査成果と併せて発掘調査報告書を刊行する予定です。大学による学術調査では、行政などの調査対象となっていない遺跡や遺物に関しても、地域の歴史や文化として残してほしいという要望に応じて、調査を計画することが可能です。なお、個人研究としては、民具などを含む「モノ」を対象とし、考古学、文献史料、理化学的な分析方法を用いた研究を行っています。



2019年度発掘実習（佐渡市西三川砂金山跡）



（五泉市村松ステーション旧陸軍関連施設跡）

関連する知的財産論文等	清水 香・米田 稔・尾崎大真・大森貴之・本多貴之・増田隆之介2019「擦文・アイヌ文化における漆椀の実年代—総合的な分析による交流史の復元—」『アイヌの漆器に関する学際的研究』北海道出版企画センター pp.93-112 清水 香2019「塗盃の出現と展開」『近世考古学の提唱 50周年記念研究大会資料 近世の酒と宴』 pp.403-420
-------------	--

### アピールポイント

地域社会に残る歴史的な痕跡について、考古学的方法を中心とした調査や記録に基づき、総合的な研究を行うことによって、地域の歴史を復元し、文化財の保存・活用を目指します。

### つながりたい分野（産業界、自治体等）

- ・ 地方自治体など

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp





人文社会科学系 准教授  
**広川 佐保** HIROKAWA Saho

専門分野 東北アジア史、社会経済史

人文社会科学

## 文書からたどる移民の歴史 ～東北アジアを行き交う人々の足跡から～

キーワード 東北アジア、中国、モンゴル、満洲国、移民

### 研究の目的、概要、期待される効果

私は、近現代東北アジアにおける社会経済的变化について、中国東北やモンゴルに移動・移住した漢人やロシア人移民の足跡から明らかにすることを課題としています。そのために中国やモンゴルの史料館で文書史料を探索したり、現地調査を行ってきました。東北アジアを行き交う人やモノの流れは、新潟県とも決して無関係ではありません。なぜなら開港後の新潟は、航路でロシアや朝鮮と接続され、多くの人々が大陸を目指した背景があるからです。例えば1920年代、新潟県津川から朝鮮半島や大陸に渡った薄益三と守次は、軍事的活動を通じて現地の軍人やモンゴル王公と関係を深め、記録映画『蒙古横断』を撮影しています。また新発田出身で大倉財閥を設立した大倉喜八郎は、満鉄や薄らと関係を持ちつつ、中国東北の権益に関心を持っていました。1930年代以降「満州事変」により中国東北に「満洲国」が成立すると、新潟県各地から多くの人々が満蒙開拓団として大陸に渡りました。新潟県からの移民総数は全国第5位を数えましたが、中には帰国することができず、残留孤児となった人もいます。このように新潟県と東北アジア間の人々の移動の歴史を考えることは、現在話題になっている外国人移民問題を考えるうえで、一つの鍵となるはずです。



大境門(張家口): かつて旅蒙商がモンゴルへ入る関所であった。



満洲里市国門: 中露国境。現在も陸路でモノと人が行き交う。

関連する知的財産論文等 広川佐保「新潟県の満洲移民関係史料—新潟大学付属図書館所蔵木村家文書」『近現代東北アジア地域史研究会 News Letter』28、2016年

### アピールポイント

近現代東北アジア地域史研究会に参加し、雑誌『News Letter』を編集しています。詳しい内容は下記をご覧ください。  
<http://northeastasia.information.jp/>

### つながりたい分野(産業界、自治体等)

- ・文書史料に関心のある皆様。
- ・東北アジアやロシアへ移住した人々に関する、未刊行の文書史料の所在など、ご存じの方がいらっしゃいましたら、ご教示ください。

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp

## アニメ・アーカイブ研究センター



人文社会科学系 准教授  
キム ジュニアン KIM Joon Yang



人文社会科学系 教授  
石田 美紀 ISHIDA Minori

専門分野

映像研究、アニメーション研究、ポピュラーカルチャ研究、ジェンダー論、ポストヒューマニズム

人文社会科学

## アニメの現場で作成された中間素材の分析と活用

キーワード 中間素材、アーカイビング、画像分析、分野横断的研究、メディア・エコロジー

## 研究の目的、概要、期待される効果

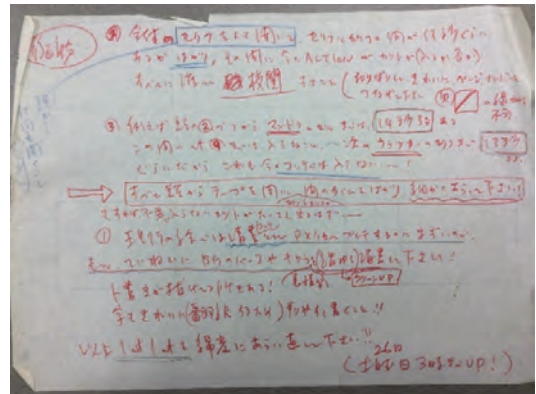
日本のポピュラーカルチャーにおいて重要な一翼を担ってきたアニメですが、キャラクター設定やセル画など制作過程の中で生み出された「中間素材」の多くは、制作工程におけるデジタル化の進展もあり、散逸の危機に晒されています。アニメ中間素材の一部は書物の形に編集され販売されていますが、膨大な生の素材は研究者にアクセスできるようなものではありません。

日本のアニメをメディア・エコロジーの視座からイメージの重層的・流動的構造のプラットフォームとして捉える本研究センターは、アニメ中間素材がアニメの制作過程やその物理美学的メカニズムを実証的に研究するための重要な根拠として扱っています。デジタル・アーカイビングを通して中間素材のより柔軟な活用を進展させており、特にセル画の成分の化学的解析など分野横断的な研究も進めています。

本センターは、アニメ中間素材を入手・整理・保全しアーカイビングを推進することで、国内外のアニメ研究者に素材へのアクセスを提供する国際的な研究拠点として機能する一方、アニメーション制作および映像メディア業界、地域社会や自治体と緊密に連携し、研究成果を社会へ還元することを目指しています。



『王立宇宙軍 オネアミスの翼』アーカイブ中間素材展  
(2019年6月14日 新潟大学ライブラリーホール)



「渡部コレクション」より  
アメリカから東映動画が受注した『G.I.ジョー』(1983~1987)  
絵コンテについての指示

関連する  
知的財産  
論文等

*Archiving Movements: Short Essays on Materials of Anima and Visual Media*, co-edited by Minori Ishida and Joon Yang Kim, Niigata: Archive Center for Anime Studies, 2019.

## アピールポイント

グローバルなメディア環境の視点からアニメの中間素材の意義を解明しています。

アニメ中間素材のアーカイビングにおける分野横断的なナレッジを蓄積しています。

## つながりたい分野（産業界、自治体等）

- ・アニメ中間素材のデジタル・アーカイビングおよびその活用を進めたいアニメ制作会社
- ・アニメによってまちの活性化を試みる自治体
- ・アニメを主題とする展覧会を企画する美術館

※お問い合わせは 新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター まで onestop@adm.niigata-u.ac.jp